

合併浄化槽の利点PR

環境整備協同組合 岐阜市で大会



「社会の役に立っていききたい」とあいさつする玉川福和会長。岐阜市長良、岐阜グランドホテル

全国環境整備事業協同組合連合会(玉川福和会長)が12日、合併浄化槽の今後をテーマにした大会「今、考え」(県浄化槽連合会共催)を岐阜市長良の岐阜グランドホテルで開き、行政関係者や関連業者など約1千人が参加した。

ことし4月、岐阜大に「みず再生技術研究推進センター」が開設。県内の浄化槽の保守点検、清掃、法定検査の

各業者がオンラインで接続されるなど業界は変化を続けている。大会で玉川会長は合併浄化槽が低コストで整備できるメリットに触れ、「市町村の財政、水環境の面で社会に役立っていききたい」とあいさつ。「水処理システム」をテーマにしたパネルディスカッションも開き、瑞浪市の水野光二市長、岐阜大の李富生教授、長良・天神川を考える会の清水

佳子さん、玉川会長が意見交換した。

またプロ野球解説者の張本勲さんが「わたしの野球人生」被爆者として、人として」と題して講演した。

(馬田泰州)